

既報のように新潟県社会保障推進協議会は12日、介護に関する新総合事業についてのアンケート調査結果を明らかにしました。

このうち上越市分についてお知らせします。上越市内の事業者へは114事業所にアンケートを送付、そのうち25事業所から回答が寄せられました。回収率は21・92%です。

アンケート用紙の自由記載欄には23件の記入があったといえます。この自由記載欄を読んだ同協議会の新倉順事務局長は報告の中で、上越市については、「従前のサービスと緩和されたサービスが混在して提供さ

上越市での新総合事業、いくつもの混乱、矛盾が露呈

れていることによる混乱、報酬が低いことによる経営上の不安、緩和されたサービスAでありながらも、これまでと変わらないサービスを提供することの矛盾がある」とのべていました。その主なものを掲載します。

■認定調査の結果に疑問を持つことがあります。ほとんどの予防の方がチェックリスト該当者であるのにチェックをする必要はあるのでしょうか？チェックリスト該当者の方の書類の期間をもっと減らせる手段をとってほしい。（訪問介護）

■職員への給料等を考えるとボランティアに近い事業ではないかと思われる。利用者（介護度1〜5）の方々、又家族にとつての本来の要望はいずれこへ。

又、地域での生活を・・・どの部分を指し地域で・・・と言っているのか私にはよく理解できず。（通所介護）

■昨年まで要支援の方たちが、機能訓練に励み、現状を維持してこられた利用者の方たちを、緩和になったからといって受け入れをしないわけにはいかないと考えた。（努力され今があるのだから）又、機能訓練をやめたことで機能の低下が懸念されることから参入した。緩和された利用者の方たちを受け入れることで報酬が下がることになり、経営が悪化している。（通

所介護）

■予防プランで現行が緩和が妥当であるが、当初曖昧だった。毎日、保険者とプランを総合事業のみの方全員分提出するので請求が大変な上、「現行ではない」と判断される。訪問介護にいたっては生活支援はほぼ緩和になつてしまう。（その他）

■あまりにも報酬が変わつたため、事業所としては本音は参入したくない。しかし、今まで提供していた利用者様を放り出すことは出来ない。今後、割合か、緩和Aが増加していくと事業所としての運営が難しくなることが不安です。（通所介護）

■基準が曖昧で書類などどこまで整備するべきかわからない。チェックリストの判定基準が、包括支援センターにより変わりが多いため、戸惑う場合が多い。（通所介護）

（下の絵手紙は高田の吉田洋子さんから送っていただきました。ありがとうございました）



【サワヒヨドリ】キク科の多年草。漢字で「沢鶉」と書きます。花は薄紫色、茎の高さは50センチくらいです。日当たりのよい、用水路付近で咲いていました。柿崎区東横山にて22日、撮影しました。



はしづめ法一の活動レポート

No.1725 2015.9.27

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三十三回

「ハハハの鳴く声」

先日、高崎市から従姉が孫の日子さんを連れてわが家にやってきました。日子さんは東村山市在住で、高校三年生です。インターネット上で何度か見た私の母にぜひ会いたいということ、わが家に来てくれました。

わが家に着いた二人を迎えた母は、「さあさ、上がってください」と言っていて、ニコニコしていました。二人はわが家に入ると、すぐに仏壇の前に行き、お参りしてくれました。従姉がわが家に来たのは父の法事以来ですから四年ぶりです。

居間のテーブルを囲んでお茶を飲み始めてまもなく、正午になったことを時計が音で教えてくれました。母はこの日のために二晩かけて栗の皮をむき、栗入り赤飯を炊きました。野菜とキノコの炒め物も作り、梅の焼酎漬けも出しました。「さあ、これがうちのばあちゃんのお飯だよ」と言いながら、私が台所から赤飯を運んで行くと、「うわー」という声がありました。

従姉はカメラを取り出して、「食べる前に写真を撮らなきゃ」と言い、母も入れて赤飯などの料理の写真を撮りました。「おつつゆが間に合わんで……」と母が申し訳なさそうに言うと、従姉は「いいよいいよ、ゆっくりで」と言いました。居間では、どこから入り込んできたのでしょうか、シオカラトンボがあちこちへこっちへと飛び回り、お客を迎えて大喜びする子どものようでした。

わが家にはツバキの木が何本かあります。そのうちの一本は真っ赤な花を咲かせてくれます。母が、「おうちの真っ赤いツバキはとちやが高崎んちから持って来たがだ」と言いました。従姉もそのことは知っていて、「うちにあったツバキはお父さんが死んでから切ったけど、途中で切ったら、また芽が出てきたよ」と教えてくれました。

従姉の父親は吉川区山直海の出身でした。高崎の家の養子になり、私の父の姉である伯母と結婚したのですが、二度も戦争にとられ、夫婦として一緒に暮らしたのは合計しても、わずか二年半だったという話を初めて聞きました。私が見た伯父の出征時の写真は二度目のもので、最初に戦争に行った海軍の服をそのまま着ていたんですね。

笑っちゃったのは母がわが家に嫁に来た時の話。従姉は戦時中からわが家に疎開してきていて、母の嫁入りの三日間を見ていたというのです。父は母と結婚するまで一度も母の姿を見たことがありません。母などがやってくる時間が遅くなったので、「おれの嫁さん、こない、こない」と繰り返していたそうです。そして、初めて母の姿を見て従姉に言った言葉は、「こんなにちっこい嫁さんとは思わなかった」でした。

昼食後は二人を私の車に乗せ、同じ吉川区内に住んでいる叔母のところや三十数年前までわが家があった吉川区尾神（蛸場）にも出かけてきました。もちろん、尾神岳へも。蛸場は従姉が疎開していた懐かしい場所です。いくつか昔の面影を発見し、うれしそうでした。また、わが家の墓参りもしてくれました。花を用意していかなかったの

で、従姉は近くに咲いていたゲノショウウコの花を花立てにさし、「ヨウコがお参りに来たよ」と墓に眠っている私の祖母や祖父、父に声をかけていました。「この日は秋晴れ、ミンミンゼミも鳴いていました。日子さんに、「どう、うちのばあちゃん顔を見て……」と訊くと、写真よりも若く見えたと答えてくれました。従姉が「なんか、全然元気。お化粧してるん」と言うと、母は「なーして、なして」と言っていて、盛んに手を振っていました。母にとつてもうれしい一日になったようです。

0～1歳児の年度途中の保育園入園、受け入れ体制整備へ

上越市議会一般質問で日本共産党議員団の平良木議員は年度途中の保育園入園が困難となっている問題を取りあげました。これについては関係者から改善要望が強く出されてい

ました。同議員は、「市内保育園において、0～1歳児の年度途中の入園が極めて困難になっているが、これにどう対応するか」と質問しました。

答弁に立った市長は、昨年度、途中入園した児童は374人いて、そのうち0～1歳児は195人であったことを明らかにしました。今年度については、8月末現在で、127人が希望し、105人（82.7%）が入園し、残りの

22人（17.3%）の保護者は来年度入園という意向を示しているとのべました。

今後について村山市長は、「0、1歳児の保育ニーズが高まる中、職員を配置することによって、受入枠を更に拡大できる園もあるので、引き続き、人材の確保に力を入れながら、保護者の希望に極力お応えできるよう、受入体制を整えてまいりたい」と答えていました。早めに手を打ってほしいものですね。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月16日(水)	9月23日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.053	0.057
頸南消防署	0.043	0.050
東頸消防署	0.046	0.033
高士分遣所	0.043	0.047
名立分遣所	0.060	0.053



戦争法反対の運動は続きます。写真は法案可決前のもの。

「戦争法（安保法制）廃止の国民連合政府」の実現を呼びかけます……この実現を願うすべての政党、団体、個人が力を合わせましょうと志位委員長が19日呼びかけを發表しました。呼びかけ文をほしい方は橋爪までお知らせください。